

2月も1月にまして寒い日が続いています。インフルエンザが流行していますので、「うがい、手洗い、マスク着用」を徹底するようにしてください。

今回は、2月より検査データの基準値を変更いたしましたので

『基準値』

についてです。

基準値とは

健康診断の基準値は以前に一部の医療機関で「正常値」という単語で使われていましたが、やはり「正常の反対は異常」といった誤解を招くため、現在は基準値に統一されています。基準値は正常値ではありません。

健診などで用いられる基準値とは、健康な動物の検査データを統計学的に算出した数値のことです。このデータは、健康なイヌやネコの検査成績をもとに、上限と下限の2.5%ずつを除外したもので、残りの95%のイヌやネコの数値が基準範囲とされています。つまり、「現時点では健康と考えられるイヌやネコの95%が含まれる範囲」が基準値ということです。

検査データの95%が含まれる範囲を抽出して、平均化した数値が基準値です。

*検査後、検査項目ごとに受診者の数値と基準値を照らし合わせて「異常なし」「異常あり」といった判定をします。異常があった場合、より精密な検査が必要となります。また、異常がなくても、油断は薬物です。

基準値は変わる

動物たちの高齢化、生活環境の変化、検査方法の向上により、健診での基準値の見直しが必要となってきます。そのために改訂を行っています。

基準値よりも過去の結果との比較が大切です。

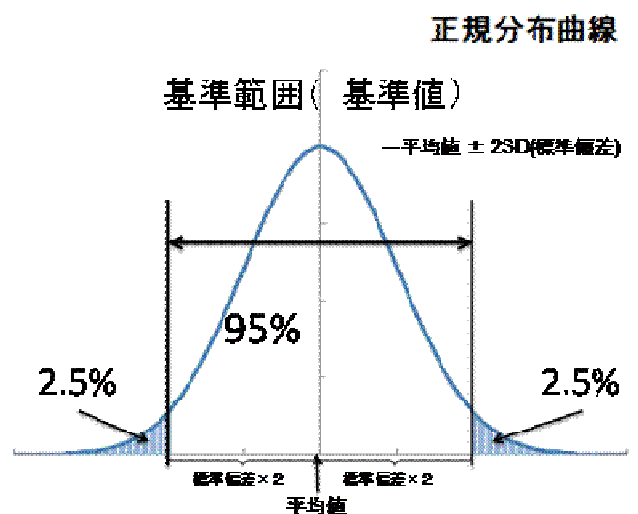
・健診の最新結果に異常がなければ心配はいらない？
いいえ。経年変化を見て数値が悪化していたら要注意。

・基準範囲スレスレで安定する場合も

高めもしくは低めの数値で基準範囲を超えそうな場合でも、数年間その数値のまま変化なくほぼ安定していれば、それは自分にとっては標準的な値だと分かる。経年変化を見ていくことで、自分の体の状態の変化や傾向を把握できるのだ。

基準値とは健康な人の95%の平均値

健康診断結果はあくまで健康の目安であり、病気になる可能性を察知する目的に限られています。最終的に異常値が病気によるものかどうかは、精密検査と獣医による総合的な判断が欠かせません。



●クレアチニン値と IRIS

・国際的な機関である International Renal Interest Society (IRIS) は、主にヨーロッパで活動する国際的な腎臓疾患に関する集まりです。

・犬と猫の腎臓病に関して、獣医師の理解と診断、治療を向上させる目的で 1998 年に発足しました

・慢性腎臓病に関するさまざまな診断、治療方法などを推奨しています。

・提言として犬と猫の慢性腎臓病の病期分類のガイドラインが示されています。病期分類とは腎臓病の進行の度合いを診断、評価します。

病期	血漿Cre濃度 (mg/dL)	備考
1	犬 < 1.4 猫 < 1.6	・非窒素血症 ・尿濃縮能の低下 ・腎臓の形態的異常 ・蛋白尿
2	犬：1.4～2.0 猫：1.6～2.8	・非窒素血症～軽度腎性窒素血症 ・臨床症状は欠如～軽度
3	犬：2.1～5.0 猫：2.9～5.0	・軽度～中等度腎性窒素血症 ・様々な臨床症状
4	猫 > 5.0 犬 > 5.0	・重度腎性窒素血症(→末期腎不全) ・最終的には維持透析か腎移植が必要

Iris (International Renal Interest Society)

・ステージⅠ

残りのネフロンの割合～33% (100%中)

・尿検査、エコー検査…うすい尿 (多尿・多飲・脱水・便秘) ・異常像が見つかることがある。

・血液検査…異常なし

尿中には微量のタンパクが出ることもある。

・ステージⅡ

残りのネフロンの割合 33～25%

・臨床症状はない、またはごくわずか (尿が増えた…と思うくらい)

・ステージⅢ

残りのネフロンの割合 25～10%

・様々な臨床症状 (貧血・代謝性アシドーシスなど)

・ステージⅣ

残りのネフロンの割合 25～10% (10%以下)

・尿毒症

補足として、尿タンパククレアチニン比、血圧を参考にします。

蛋白尿の定量および分類

分類	尿中蛋白質：クレアチニン比	
	犬	猫
非蛋白尿 (NP)	<0.2	<0.2
境界域の蛋白尿 (BP)	0.2～0.5	0.2～0.4
蛋白尿 (P)	>0.5	>0.4

蛋白尿の定量は、感染、炎症または出血の徴候がない尿サンプルの尿中蛋白質：クレアチニン比と測定して行わなければならない。少なくとも1または2カ月間に尿中蛋白質：クレアチニン比を2～3回測定して、蛋白尿が持続していることも明らかにしなければならない。

CKDの猫および犬における収縮期血圧に伴う危険性

血圧による分類	収縮期血圧	種特異的な基準範囲が利用可能な場合
0 危険性はほとんどない	<150	基準範囲を<10 mmHg 上回る
1 危険性は低い	150～159	基準範囲を10～20 mmHg 上回る
2 中等度の危険性	160～179	基準範囲を20～40 mmHg 上回る
3 高い危険性	≥180	基準範囲を≥40 mmHg 上回る
合併症なし (NC)		末端器官損傷/合併症のエビデンスはない
合併症 (C)		末端器官損傷/合併症のエビデンスがある
リスクを評価していない (RND)		血圧を測定していない

●慢性腎臓病はどういう病気？

・慢性に経過し不可逆的に進行する腎臓機能障害。壊れたところは治らない。

ネフロンの50%が損傷を受けると、傷ついた部分は新しく形成されないため残ったネフロンが200%の仕事を補うことになります。